

平成 27 年度前期「各授業科目の評価結果に対するフィードバックコメント」集計結果

2016/3/8
教育支援室

1 概要

大学教育センターでは「学生による授業評価」結果に対する教員側からのフィードバックを平成 26 年度後期分より集約し、本学の授業改善支援に活用しています。平成 27 年度前期は、学部・別科で行われた各授業の科目責任者に次の 3 点に関するコメントの提供を依頼しました。

1. 評価結果に対する感想，意見
2. 今後の授業改善のための考え
3. 授業へのアクティブ・ラーニング¹の導入事例

以下、その集計結果を報告します。

2 回答状況

授業形態別の対象科目数と回答数は次の通りです。

授業形態	開講科目数	回答数	回答率
講義（大人数）	43	14	33%
講義（少人数）	74	31	42%
演習	7	1	14%
実験	3	2	67%
実習	34	11	32%
実技	1	1	100%

¹アクティブ・ラーニングについては文部科学省（2012）による以下の定義を注釈として付記した：「アクティブ・ラーニングは、教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

合計	162	60	37%
----	-----	----	-----

ここで、「開講科目数」は、実際に開講された授業（非常勤講師および学外講師の担当授業を除く）数を、同一教員が同一科目名で異なる曜日に複数回開講する授業数はまとめて1として算出したものです。「回答率」は「開講科目数」に対する「回答数」の割合です。また、簡単のため履修者数が80名を超える（81名以上の）講義を「講義（大人数）」、そのほかを「講義（少人数）」としています。

3 授業評価に対するコメント

「評価結果に対する感想、意見」、および「今後の授業改善のための考え」についての回答状況は次の通りです。なお、授業評価アンケート自体に対するコメントもいただきましたので、合わせて掲載します。

コメント項目	コメント数	主なコメント内容
「評価結果に対する感想、意見」	42	<ul style="list-style-type: none"> ● 高評価で、妥当／意外な評価だった ● 建設的・有益なコメントが得られた ● 授業外学習時間が不十分・授業外課題が必要 ● 難易度の調整が必要 ● 多様な学力・興味への対応が難しい
「今後の授業改善のための考え」	46	<ul style="list-style-type: none"> ● 自習課題・web 利用により授業外学習を促進したい ● アクティブ・ラーニングを導入したい ● 難易度・進度の調整をしたい ● 扱うテーマをブラッシュアップしたい ● 教材・資料・板書・スライド・進行等を改善したい ● 大人数はクラス分けや少人数化も必要では ● 実験授業は2単位化も必要では
授業評価アンケートについて	2	<ul style="list-style-type: none"> ● C5 の「熱意」は抽象的、設問として不適では ● B4, B5 は特定学生を対象とし、不適では ● 複数教員担当授業は、教員ごとの評価を希望

4 アクティブ・ラーニングの導入事例

アクティブ・ラーニング（AL）の導入状況に関する回答状況は以下（次ページ表）の通りです。ここで、「AL の導入数」は、アクティブ・ラーニングの導入事例のある科目について、その内容や分量を問わず1として算出しました。また、「AL の導入率」は、「AL の導入数」の「回答数」に対する割合を「回答」、「開講科目数」に対する割合を「最小」として求めました。さらに、講義科目においては今回フィードバックコメントの回答が

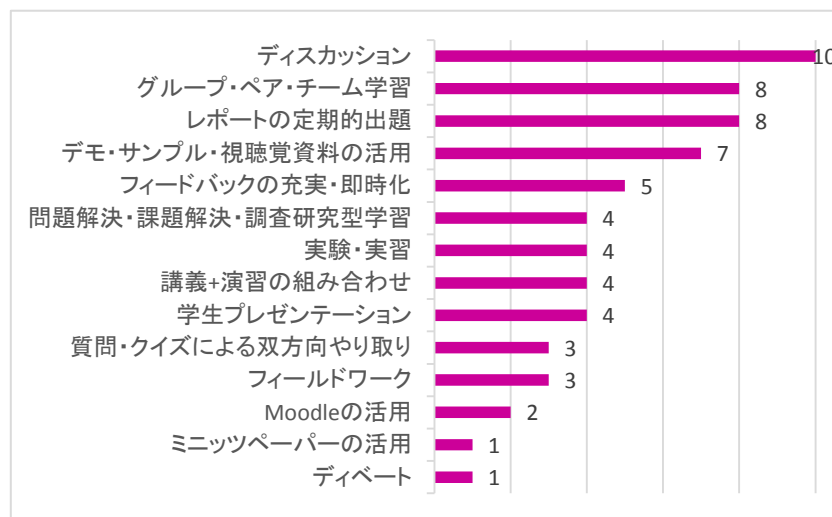
なかった科目についても「回答」に等しい割合で AL が導入されているものとし、かつ演習・実験・実習・実技科目においては科目の性格上すべて AL が導入されているとみなした場合の割合を「推定」としました。

授業形態	開講科目数	回答数	AL の導入数	AL の導入率 (回答 / 最小 / 推定)
講義 (大人数)	43	14	4	29% / 9% / 29%
講義 (少人数)	74	31	6	19% / 8% / 19%
演習	7	1	0	0% / 0% / 100%
実験	3	2	2	100% / 67% / 100%
実習	34	11	6	55% / 18% / 100%
実技	1	1	0	0% / 0% / 100%
合計	162	60	18	30% / 11% / 44%

この結果では、まだ事例は少ないものの、AL の導入が特に求められる講義科目において、授業方法・内容の工夫が進められつつある状況にあることがわかります。なお、前回集計 (H26 後期) 時の結果と比較すると、少人数講義での導入率 (「回答」ベース、以下同) が低下 (31%→19%) しているものの、大人数講義では増加 (14%→29%) し、全体としてもやや増加 (25%→30%) しています。なお、演習や実習などは必然的に AL が行われており、実際の導入率はより高いと「推定」できます。

AL の導入については、「高校までの受動的にノートをとる授業に慣れている学生に対して、大人数でのアクティブ・ラーニングを行うのは工夫が必要である」、「履修者数が多いため、(中略) 行動を取りにくく、アクティブ・ラーニングの十分な導入が困難である」、「授業の時間配分は、どうしても専門的概念や理論の解説にウェイトを置かざるを得ず、練習問題を解いてみる演習科目があればいいのだが」、「(能動的学修の動機づけのための) レポート添削が毎週末の日課になり教員の負担が大きいことや、予習・復習に費やす時間が平均の 2 倍以上と学生の負担も大きいと思われる」などのコメントがあり、履修者数の多さや時間的制約等による難しさも指摘されています。

なお、具体的な導入例を大きく分類すると右図のようになり、授業中の学生同士・グループ等の単位によるディスカッションやワークなどの導入のほか、講義形式に演習や課題・プロジェクトを組み合わせる例、さまざまな教材・資料の工夫による動機づけの試みなどが挙げられました。ま



H27 年度前期授業評価に対するフィードバックコメント集計結果

た、課題の出題ときめ細かなフィードバックにより、授業外の能動的学修の促進例なども紹介いただきました。